

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	グループホーム センチュリー21		
所在地	宇部市山中126-1		
電話番号	0836-62-1021	事業所番号	3570200539
法人名	社会福祉法人 愛世会		

訪問調査日	平成 21 年 1 月 29 日	評価確定日	平成 21 年 3 月 13 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番17号 山口県総合保健会館内		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人 非常勤 0 人 (常勤換算 7 人)	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	2	~ 2 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 27,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	150 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
その他の費用	月額	6,000 円		
	内訳	共益費 (光熱水費を含む) 日額 200円		

### (4) 利用者の概要 (1月29日現在)

利用者数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
	要介護 1	5	要介護 4		
	要介護 2	2	要介護 5		
	要介護 3	2	要支援 2		
年齢	平均 83 歳	最低	72 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 阿知須共立病院 歯科 ユー歯科
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

### (優れている点)

評価結果について全職員で検討し、改善計画シートを作成し、改善項目ごとに、取り組まれています。ヒヤリはっと、事故報告書を整備し、法人の事故防止対策委員会で対策を検討し事故防止に取り組まれています。火災、地震、水害などの対処マニュアルを作成し、法人全体で毎月、夜間想定も含めた通報、避難訓練を利用者と共に実施されています。

### (特徴的な取組等)

三食の食事作りを利用者を主体として取り組まれています。味付け、調理、配膳、後片付けなど支え合う関係づくりと共に、利用者の自立に向けた機能訓練になっており、利用者がいきいきとしておられます。法人施設の応援体制が図られており、職員、利用者、家族の安心に繋がっています。月1回の日帰りドライブ、外食、2日に1回の買い物など外に出かける支援をされています。

## 【重点項目への取組状況】

### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

改善計画シートを作成し、改善目標や計画を検討し、改善項目に取り組まれています。全職員で内容につき、評価し、サービスの質の向上に努められています。

### (今回の自己評価の取組状況)

自己評価書に主任が記入して、管理者、全職員で検討し、確認されています。サービスの質を振り返る機会になっています。

### (運営推進会議の取組状況)

地域包括支援センター職員、民生委員、利用者2名、家族、管理者、職員のメンバーで年4回開催し、事業計画、運営報告、外部評価の報告、利用者の状況、地域密着型理念への意見交換、避難訓練などの話し合いをされています。

### (家族との連携状況)

年1回「母の日」に家族集会を開催し、行事説明をされています。運営推進会議の前に、食事会を実施し、状況報告、要望など聞いておられます。ホーム便り、金銭出納簿の写しを毎月送付しています。

### (地域との連携状況)

利用者の地元の文化祭、盆踊り大会への参加、保育園の運動会や発表会の見学など、地域との交流を楽しんでいます。法人の夏祭りには子供や地域の方々が来られ、交流ができています。法人として、地域の行事に協力されています。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>「地域のボランティアを受け入れるなど、慣れ親しんだ環境のもとで交流を深めたい」と、事業所独自の理念を職員間で話し合い、つくりあげている。</p>	
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>職員間でつくりあげた理念を共有し、理念に添ったケアができるよう、毎朝唱和している。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の文化祭、盆踊り大会、保育園の運動会や発表会など積極的に行事に参加し、地元の人々との交流に努めている。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p><b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>管理者、計画作成担当者、職員は自己評価、外部評価の意義を理解しており、評価を踏まえた具体的なケアに取り組んでいる。</p>	
5 (10)	<p><b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>年4回運営推進会議を開催し、事業計画、運営報告、利用者の状況等を報告し意見交換をしている。外部評価の結果も報告している。</p>	
6 (11)	<p><b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>高齢福祉課、介護福祉課や校区のふれあいセンターとも連絡を取り合ってサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月「グループホーム便り」を送付し、現在の状況、状態がよく理解出来ると家族より喜ばれている。年1回「母の日」に家族集会を開催し、総会で事業計画を報告し、情報交換を行い、利用者と一緒に食事を年3回(7月、9月、2月)行っている。市外で面会の少ない家族には電話や手紙で報告している。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族総会や訪問時、意見や苦情を聞いている。月、2回介護相談員の受け入れをしている。苦情受け付窓口、担当者、第三者委員や外部機関の明示、苦情処理の手続きも明確に定めている。	
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員は7名で希望休を勤務表に記入し、行事など状況の変化にはすぐ対応出来るよう、職員の話し合いで調整している。夜間は併設施設の応援体制が出来ている。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動はあまり行なわれず、利用者のダメージには配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月法人で施設内研修会が実施されている。外部研修は職員の希望は取り入れるようにしているが、研修の機会はない。	・外部研修の検討
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	ブロック老人福祉施設交流会に参加し、意見交換をしている。他のグループホームと情報交換をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>		
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医と事業所の協力医の関係を築き、適切な医療が受けられるように支援している。受診も希望に応じて対応している。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	看取りの指針、マニュアルの作成、ターミナルの研修も実施している。ホームの方針としては状態の変化に応じて、医師、家族と話し合い、併設施設への移行説明をしている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	一人ひとりにあった言葉かけを工夫し、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように対応している。記録類は事務所の棚に保管し、個人情報の取り扱いには配慮している。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日、その時に応じた過ごし方や希望にそって柔軟に対応している。	
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者と職員は隔日に食材の買物に行き、調理、配膳、食器洗いなど一緒に行い、共に、食事をしながら、会話をしている。一人ひとりの好みを活かした献立作成もしている。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は隔日14:00～17:00と決めているが無理強いせずタイミングに合わせ、「入りたい」という気持ちで入浴出来るように支援している。シャワー浴、足浴、清拭など利用者の状況に合わせた支援もしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴や毎日の利用者との関わりの中で、編み物、料理、手作り作品等一人ひとりを活かした場面づくり、楽しみ事、気晴らしの支援をしている。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	隔日に食材の買い物、月1回の日帰りドライブ、外食など一人ひとりの希望に沿って外出支援をしている。	
(4)安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	法人の「身体拘束廃止委員会」の研修会に参加し、言葉や、薬による拘束を正しく理解しており、拘束や抑制のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	1人ひとりの状況を把握し、見守りを徹底し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	法人の「事故防止対策委員会」でリスクマネジメントノートにより、検討、協議し、事故防止に全職員で取り組んでいる。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当や事故発生防止のための指針を作成している。AED(心臓救命装置)使用訓練を、年1回地域の消防署員を講師とした法人の施設内研修で取り組んでいる。	
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	法人で毎月通報避難訓練を利用者と一緒に行っている。法人で災害備蓄体制を備えている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	職員は薬の情報をファイルし、一人ひとりの薬の目的、副作用など理解しており、服薬は手渡しして確認している。必要な情報は医師、看護師、薬剤師にフィードバックしている。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後一人ひとりに応じた支援をしている。義歯は夜間消毒し、歯ブラシは週1回消毒している。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分摂取量を記録し、栄養バランスについては法人の栄養士の助言をもらっている。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	法人の「感染防止対策委員会」で予防対策が検討されている。2年前にノロウイルスが発生したのがきっかけで、毎日、消毒液で手すりなどの拭き取りを行っている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	中庭を囲むガラス張り、部屋は明るく、木々の緑が安らぎを感じさせる。椅子やソファが設置され、利用者の居場所となり、仲良く談笑されている。台所、食堂は料理の匂いを感じる居心地良く過ごせる場所である。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	筆筒、テーブル、机、衣装ケース、ぬいぐるみなど馴染みの物が持ち込まれ、居心地良く過ごせる居室づくりをしている。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム センチュリー21
所在地	宇部市大字山中126-1
電話番号	0836-62-1021
開設年月日	平成12年4月1日

## 【実施ユニットの概要】 (12月1日現在)

ユニットの名称	グループホーム センチュリー21				
ユニットの定員	9名				
ユニットの利用者数	名	男性	名	女性	9名
	要介護1	4人	要介護4		
	要介護2	2人	要介護5		
	要介護3	3人	要支援2		
年齢構成	平均 83 歳	最低 72 歳	最高 94 歳		

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	主任が記入し、管理者、職員が確認していき場合に応じては、全員で検討していった。
評価確定日	平成20年12月18日

## 【サービスの特徴】

1. 自然環境に恵まれた安らぎのある住環境で、行き届いた専門的ケアを提供する。
2. 心身機能が低下した場合には、併設の特養ホームに受け入れが可能である。
3. 各種レクリエーションや季節の行事を実施している。
4. 1日3食、食事作りをしている。
5. 思い出を個人のアルバムに残している。



**自己評価票**  
 取り組みの事実  
 (実施している内容・実施していない内容)

項目		印 (取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		地域のボランティアを受け入れている
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		毎朝唱和している
3	<b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	<b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
5	<b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	○	見学に来られた方や、新しく入居された方や家族に、いろいろ説明する際に示していきたい
2. 地域との支えあい			
6	<b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。		特養入居者やデイサービス利用者の方との交流を図るようにしている
7 (3)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		
8	<b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	○	会議などで取り上げ検討していきたい

項目		印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価、外部評価の意義は理解している 改善があれば、話し合っひとつづつ前向きに取り組んでいる	
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	事業計画や経過報告などをし、意見を募り話し合いサービスの向上に活かしている	○ 外部評価での評価結果をもとに話し合いなどを行う
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	わからない事があればすぐにでも電話をかけて聞くようにしている	
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	母体施設の生活相談員が研修に参加しているので、状況に応じて相談し、支援していきたい 又、まだ制度を活用したことはない	
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待がないよう職員の気持ちの持ち方など、いろんな話ができるような雰囲気を作るようにしている	
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入院治療によりグループホームでの生活が困難となり退居となった家族が病院退院後の生活について不安になっていた為、併設の特養への入所をすすめると安心され、本入所に至るまで家族と連絡をとりあった	家族が不安に思っていることを解決していきたい
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者と話がしたい入居者には、ゆっくり話しをしてもらい運営に繋げている 又、月に2回介護相談員2名が訪問している	
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	運営推進会議の時、家族から「毎月発行のグループ便りは、写真を多く載せているので現在の状況、状態がわかりやすい」との発言があった。	グループ便りには、「担当者からのコメント」を設けており個々の生活状況を担当者直筆で書いている

項目			印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	玄関近くの本棚に外部評価や情報公開のファイルをいつでも見られるようにソファも置いて設置している 又、要求があれば応じていくようにしている。		
18 (8)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	玄関入り口付近に、苦情箱を設置したり広報誌を貼付したりして明確に示している		
19	<b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	入居者の入院で、「ショート利用」について職員より管理者に提案し本年10月より受け入れ可能となる。		
20 (9)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	温泉好きな入居者が毎月行かれるよう支援している 又、何らかの急な変化があってもすぐに対応できるよう、職員の理解のもと話し合い調整に努めている。夜間は、併設の特養の職員の応援体制を取っている		
21 (10)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	移動はあまり行われておらず、離職する職員もいない。		
5. 人材の育成と支援				
22 (11)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月法人で施設内研修を行っている 又、施設外研修については、職員の意思を大事にしている		
23	<b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	運営推進会議において、委員より男性の入居についての質問に対し管理者は「受け入れていく体制で男性職員を配置している」ことなどを説明する		
24 (12)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	交流する機会が少ない	○	グループホーム連絡協議会加入を検討していく

項目			印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	毎年行われる「老人福祉施設職員レクリエーション大会」に、今年は母体施設も含む27名の職員が参加し、終了後各部署別に食事会を開いたりしてストレス軽減に努めている。また、法人として親睦旅行や忘年会等が行われている。		
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	介護福祉士や介護支援専門員等の資格取得を目指す職員に対し法人として、可能な支援を行い資格手当を支給している		
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	運営者は、管理者や主任(計画作成担当者)に対し、適切な評価と処遇に努めている		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居前の面接の時、本人からは不安なことなどあまり語らない為、様子や雰囲気からくみとり安心できるよう笑顔で受け止めるようにしている。		
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	グループホームのあり方、考え方などを説明する際、話の中で不安に思っている事や要望など聴くよう努めている		
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	管理者か施設の介護支援専門員が対応し、在宅の可能性や特養、グループホームの入居が必要かどうか等相談者と充分話し合うこととしている		
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前、他の入居者を巻き込み職員も一緒に話したりして、コミュニケーションをとるようにしている 又、入居してしばらくは家族の面会が多い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	朝、入居者の着替えの支援をしていたら、3～4名の入居者が話し合い協力して朝食準備をしていた		

項目			印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族から干し柿にして食べて欲しいと渋柿を頂き、皆さんで皮むきをし、干し柿作りを行った		
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	急に寒くなった夜、家族より心配されて暖かく過ごせるようにしてほしいと電話がかかり、すぐ本人にそのことを伝えた		
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	食料品など日常的な買い物をするスーパーなど、変更しないようにしている		
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	聴覚障害者の方が入居され、手話をまねたりジェスチャーで話したりして、やさしい気持ちで係わっていた		
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期入院により退居となるが、退院後は母体施設入居を希望されていたので、時々様子を見に行ったりして現状の把握に努めた		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケース記録時、本人の言葉に「」を付けたり、職員の気づきや思ったこと感じた事を記入することにより、本人の把握に繋げていけるよう努めている。		
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族との何気ない会話や本人との会話の中で、引き出し把握するよう努めている		
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日課計画表を個別に作成している 又、変化が見られればケース記録などに記入している		

項目			印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族に要望などを聞き、担当者を中心に必要な関係者(施設のケアマネ、看護師、栄養士)と話し合っている		
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	すぐに担当者と話し合い現状に即するように努めている		
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	本人が発した言葉は「」で表し、又、行動や雰囲気などから思ったこと感じたことなどをケース記録として残し、特に共有したい情報は日誌にも記入するようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	母体の特養やデイサービスの行事等に参加している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域のボランティアを受け入れホーム内の掃除やコミュニケーションの支援をしてもらっている		
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	地元の小中学生と「1日ふれあい体験」を毎年行っている		
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他のサービスを利用する支援は行っていない		

項目		印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在制度を利用する方は、居られないが状況に応じて行っていく	
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	契約時、こちらのシステム(かかりつけ医や通院について)を説明し次に希望を聞き応じるようにしている	
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	囑託医が「神経内科」の為適切な指示や助言を受けられる	
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	母体施設の看護師のひとりがグループホーム担当看護師の為、毎日入居者の健康状態の把握に努めており 又、相談もしている	
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	家族や病院関係者と連絡を取り合ったり 又、状態を把握する為病院を訪ねたりして1日でも早い退院に心がけている	
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ホームの方針としては、重度化した場合母体施設への入居が可能なことを説明している	
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	方針により検討や準備は行っていない	○ 法人の施設内研修にて「看取り介護について」の勉強会を予定している為参加していく
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む先がほとんど母体施設の特養なので、情報交換など充分に行うことができ、カンファレンス会議にも参加している	

項目		印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援  1. その人らしい暮らしの支援  (1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	何がプライバシーを損ねるのか、勤務中でも気がついた時には、話し合ったり注意しあったりし 又、記録等は外部に持ち出さないなど注意を払っている	○ トイレ誘導する時には「トイレ」という言葉は口にしないようにしている
57	<b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人のわかる言葉を使った内容で話している そして入居者のペースで物事を進めていけるように努め支援している(職員のペースで進めないように心がけている)	
58	<b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b> 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	入居者の「力の見極め」に努め情報交換を行い支援につなげている	
59 (22)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	外食では何が食べたいか何処に行きたいかなどみんなで想像しながら会話をし希望をきいて支援に繋げていけるようにしている	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<b>身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	半年に1回ぐらい3～4名の方に毛染め(ヘアカラー)をしている	○ 美容院へパーマをかけに行く
61 (23)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備や食器洗に自ら参加される方にはその気持ちを大事にし、いい雰囲気作りにも心がけている	
62	<b>本人の嗜好の支援</b> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	夕食の食事中晩酌をする方や寝酒をする方がいる(本人と話し合い飲む量は決めている)	
63	<b>気持ちのよい排泄の支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	おむつに移行しないようトイレ誘導に力を入れて	



項目			印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	好みの湯温の時に声かけしたり、無理強いしないようにタイミングを図ったりして「入りたい」という気持ちで入浴してもらえるよう支援している		
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	生活習慣やその日の申し送りで状況を判断している 又、風邪など体調不良に繋がらないように支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	本人や家族の希望により毎月温泉に行っている 職員が順番で付き添う為いろんな温泉に行かれ楽しみにしている		
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お祭りや買い物に行くとき、状態や状況に応じておこづかいとして本人に渡している(家族と話し合い決めている)		
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一日おきに食材の買い物に行っている (まずは全員に声をかけ行きたい人を募ったり個別に声をかけたりしている)		
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居前、生活していた場所の周辺へドライブに行くとナビゲーターとなり職員に道を教えたりして指示していた		
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自ら電話をかけたいと言う方はおられないが、本人が希望すればいつでもかけられる事は家族にも本人にも伝えている 又、年賀状などの支援をしている		
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間の制限は特に設けてなく、来訪された時には、飲み物などをお持ちしてゆっくりと過ごしてもらえるようにしている		
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	宿泊を希望される家族は、おられないがいつでも対応できるようにしている。		

	項目		印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	年に1回の家族総会、敬老祝賀会そして年2回の親睦を兼ねた食事会などを行い参加を呼びかけている		
(4)安心と安全を支える支援				
74 (27)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	法人で「身体拘束廃止委員会」を立ち上げ半年に1回話し合っている。身体拘束をしないケアうを実践している		平成20年9月の施設内研修にて外部研修の研修発表があった
75 (28)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室や玄関、裏口には鍵をかけてはいないが、母体施設の一番奥に位置している為施錠箇所がある		
76	<b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	各職員見守りの重要性を把握しており安全に心がけている又、離れたりする時には声をかけあっている		
77	<b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者の目にふれないようにカーテンをかけたり、扉付きの収納ボックスを利用している 又、台所道具(冷蔵庫、包丁を収納する流し台など)は鍵を取り付けて夜間のみロックしている(昼間は開放している)		
78 (29)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	法人で毎月「通報非難訓練」を行っている 又、法人の業務改善の一環として事故防止委員会が発案した「ちょっとちょっとヒヤリハット」(ヒヤリハットになる可能性を感じた事例)を全職員から募り委員会で検討し事故防止に繋げていく		
79 (30)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	毎年消防署の協力を得て法人職員全員が救急法などの勉強会に参加している		
80	<b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故報告書を事故防止委員会で検討し、場合に応じては防止策をマニュアル化している		

項目			印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	法人で毎月通報避難訓練を実施している 又、法人での緊急連絡網を作成している		
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族にどんなリスクが生じるかを説明し、家族や本人の気持ちを確認しながら話し合っている		寝酒について夜間の排泄による歩行時の転倒など話し合う 本人も家族も飲酒を希望される為歩行時の見守り強化をしている
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日頃より様子観察の重要性について職員間で話し合い意識の強化に努めている 又、変化を感じた時には、家族、看護師、嘱託医等に相談し必要であればすぐに受診している		
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	どんな病気でどんな薬を服用しているか把握するように努めている 何か気づきや変化やわからない事が生じればすぐに嘱託医や看護師、薬剤師に連絡 相談している		
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	日頃の食事から野菜など多く取り入れるように意識している 又、水分補給強化や歩行運動は毎日心がけている		
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後入居者に応じた支援の仕方です声かけし、必要に応じては介助している ハブラシは週1回消毒している		本人より義歯洗浄剤を買ってきて欲しいと言われすぐに購入する
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立表をみながら栄養バランスを意識した家庭料理に心がけている 又、食事や水分摂取量を記入し状況に応じた支援をしている		状況に応じて食事介助をしている
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	法人に「感染防止対策委員会」を設置し配布資料などには必ず目を通すようにしている		2年前ノロウイルスが発生したのをきっかけに毎日各部署で消毒液による拭き取りを行うようになってからかぜなどの発生が少なくなった
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日まな板やふきんなどハイター消毒している 又、県からの通達などの把握に努め安全な食材の使用に心がけている		肉や缶詰など国産を意識して購入するようになった 又、市販のギョーザではなく手作りギョーザを食べるようになった

項目		印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	母体施設の一番奥に位置するホームの玄関は植木や椅子を設置して和めるように工夫している	
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	おやつや食事の時には入居者同士または、入居者と職員とのコミュニケーションがとれるようテレビを消し会話に心がけている 又、居間や居室には季節の花などを飾っている	
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファや椅子を数箇所に設置している 又、ぬいぐるみやクッションなど置き癒しに繋がっている	
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家具など自発的に持って来られ本人と話し合いながら居心地良く過ごしていただけるよう工夫している	
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎朝掃除の時に窓を開けて換気に努め 居間には、温度湿度計を置き入居者の声を聞きながら調節に努めている	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	歩行器の使用や見守りの強化を行い、歩行を促し安全と自立に繋げている	
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	見守りや一緒に行動することによりわかる力を活かせるように努めている	
97	<b>建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	特養併設により玄関や周囲は施錠されている為活かされていない	裏口は自由に出入りできる為洗濯物を干したり取り込んだり自由に行っている

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と <input type="checkbox"/> 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	<input checked="" type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/> あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない